資料２－３

適正利用・エコツーリズム検討会議からの報告

前回報告以降の主なトピック

エコツー戦略の改訂を検討

インタープリテーション全体計画を導入、推進

１．令和６年度適正利用・エコツーリズム検討会議の議論

第２回会議を令和７年２月 20 日（木）に開催しました。主な報告内容及び指摘事項は下記のとおりです。

（1）知床エコツーリズム戦略に基づく提案の進捗状況

・現在、知床五湖冬期利用促進事業検討部会及びカムイワッカ部会で提案のあった事業が承認を受けている。詳細は以降の議題で報告。

（2）個別部会等からの報告

①厳冬期の知床五湖エコツアー事業　（知床斜里町観光協会）

・１月実績は前年度の約４倍と利用者数は増加傾向。１日 80～90 名（最大 126 名）程度の参加で、１ツアーあたり 10 名の上限を超えることはない範囲で実施。

・当初の目的であった厳冬期の知床五湖の静寂さを体験できるプログラムが維持されているか、曜日や時間帯毎の参加状況を分析し１回あたりの密度の傾向がわかるよう整理してほしい。

②知床五湖地区における取組み（環境省）

・利用適正化計画について、ヒグマ活動期の小ループ利用機会を増やすため、安全面や運用面への課題を検証しながら立入人数上限の引き上げや利用ガイドラインを見直す。また、認定手数料の改定も検討。

・一湖での園芸スイレン除去については、７月から葉の再生速度に除去のスピードが追い付かない。７～８月に注力するなどスイレンの生活史も考慮した対策をする。ネムロコウホネ等が混在しないスイレンのみで構成される群落では機械を使った刈り取りも検討。根茎も含めて徹底的に除去しないと根絶は難しいとの知見もある。部会の報告とは分けて外来植物対策として次回今後の方針を報告してほしい。中途半端に継続するのは参加者のモチベーションにも影響すると危惧する。

③カムイワッカ地区における取組み（斜里町）

・カムイワッカ湯の滝利活用検討事業について、試行は今年度で終了し 2025 年度から本格実施。2025 年から 2027 年の３年間を第１フェーズと位置づける事業計画案を策定。

・今年度は収支マイナスだったが前年度からの繰越で補填。現時点では料金改定等検討していないが、今後経営の安定化に向けて考える必要がある。森林管理局との土地貸借契約も複数年度での契約を協議中。

④ウトロ海域における取り組み（知床ウトロ海域環境保全協議会）

・ケイマフリの個体数が 2010 年以降増加傾向であり、2024 年の最大個体数 284 羽になっている。一方、営巣数は横ばいだが、営巣地が崖地のため視認が困難であることが要因と考えられる。

⑤ホロベツ地区の整備の長期化（斜里町）

いったん推進で予定していた同地区の整備計画は、地域関係者及び森林管理局と再調整をすることを斜里町が報告。

（3）関係機関からの報告

①知床しゃりアクティビティサポートセンター（斜里町）

・2024 年 7 月に知床しゃりアクティビティサポートセンターを斜里町が設立。小型旅客船等の安全設備導入支援、自然アクティビティのリスク洗い出し（ガイド事業者へのヒアリング）・情報サイト制作（HP は制作中）等を実施。

・各事業者が発信している野外アクティビティにおけるリスク（危険）を一元的に情報発信し斜里町全体のリスクマネジメントの底上げを主目的に活動していく方針。

②ルサ地区での取組みについて（羅臼町）

・羅臼町によるルサ川の改修事業について紹介。環境省によるルサ園地整備と相乗効果を図り、サケマス類の遡上状況を観察できるフィールドにする構想。

・環境省による園地整備も適正利用に関係する話題になるため、今後は検討会議での報告を依頼。

③北海道東トレイルの開通について（環境省）

・2024 年 10 月に北海道東トレイルが全線開通。来年度、地域住民の理解促進や利用環境向上のためのサービス等の検討、ツアー造成等に取り組む。

④国立公園指定 60 周年・世界遺産登録 20 周年記念事業について（環境省）

・来年度も世界遺産登録 20 周年記念式典等の記念事業を開催予定。

⑤知床星空散歩事業の結果について（知床斜里町観光協会）

・星が出ているときの満足度は 100%、星が出ていないときの満足度も 51%で、次年度ガイドツアーの日数増の要望があるなど好評。

・ライトアップ等と異なり夜間の利用として国立公園らしさもあり好ましい。

（4）インタープリテーション全体計画の策定状況について

・今年度は地域毎にワークショップを開催し、地域資源の洗い出し・整理を進めた。今後、地域資源の価値に紐づくストーリーを明文化し、ストーリーブックをまとめる。次年度以降インナーブランディングの展開をしていく。

・インタープリテーションは語り手と来訪者の相互の意思疎通であるならば、計画策定にあたっては利用者の視点も取り入れる共創の視点が重要。

（5）エコツーリズム戦略の見直しとエコツーリズム検討会議の進め方について

・エコツーリズム戦略の見直しにあたり、これまでの検討会議の経緯や実績・課題を整理した。検討会議の中での WG 委員の役割が不明瞭な点やボトムアップ型の仕組みとして大きな成果でもある提案制度について承認の仕組みが複雑であったり、提案者の負担（労力・金銭）が大きかったりする点が課題として挙げられた。

・戦略改定にあたっては、ゾーニングやリスクマネジメントの項目を追加するとともに過去

に作成された各種計画との関係性を整理、あるいは統合する想定。

・現状の課題を踏まえ、次回 WG、検討会議でメンバーと議論をした上でそれぞれの会議のあり方や役割分担を検討し、体制や運用の仕方を整理の上戦略の改定するのが適当。

・ゾーニングを考える際には羅臼町と斜里町との地域特性の違いも考慮してほしい。

２．今後の会議運営

・第１回適正利用・エコツーリズム WG：令和７年７月頃　斜里町

・第１回適正利用・エコツーリズム検討会議：令和７年９月頃　羅臼町

・第２回適正利用・エコツーリズム WG：令和７年１月頃　斜里町

・第２回適正利用・エコツーリズム検討会議：令和７年１月頃　斜里町

3. 委員の離任新任について

敷田委員（申し出により退任）

以上